社說

宮中府中の別

すこしも犯すみとなく又犯さるゝみともなく儼然守る可き所を守て各々其分を盡すは即ち文明の作法にして屬官が大臣の進退を隣し無官の彌次馬が大政に容喙するが如きは謬て容す可らず特に宮中府中の分界は成る可く嚴重にして假令ひ政治界に如何なる騒動を生ずるも宮内官吏の與り知る所に非ず一切馬耳東風に附し去らざる可らず即ち華族の會衆を集うする所以なるに然るに往々にして政治に容喙の風聞あるは我輩の甚だ憂とする所なり彼の宮内大臣事件に於て宮廷の官吏が内閣に迫りて其政策を動したるは毋論可らざる事實にして其後御大葬の時に際しても宮中の事と國務とを混同して當然國家の義務に屬す可き事柄さへも差圖したるは是亦人の知る所なる可し會計檢査院事件に付ても宮内官吏中に彼是奔走するものゝありしとの說を聞くのみならず實際宮内官吏の獻心を得たるものは政治上に於ても自から勢力あるに反して假令ひ政治家として勝れたる伎倆あるも宮廷に不人望なれば不如意を嘗むるの事情なきに非ずと云ふ宮中の意見、時に府中を左右するの權として見る可し斯の如くにして何か事ある毎に宮中の吏員が陰に運動し陽に容喙して政務を動すみといよ〳〵甚だしきに至らば國務大臣として國政の衝に當る者は汲々として宮中の獻心を買はざる可らず或は宮内官吏をして閣員と共に進退せしむ可しとの議論を生ずるに至る可し英國の如きは内閣と共に宮中の重なる役人も更迭するの例にして其議は蓋し宮中よりの壓制に閣員が自由に腕を揮ふを能はざりしに由るものならん已むを得ざる次第なれ共本來を云へば宮中の官吏は帝室私用の奉公人にして閣員は國家公共の公僕なり一は宮中の都合に依て進退し他は國民の輿論に依て動く可き者にして全く性質を異にするものなり政府の官吏が輿論の攻擊に遇ふて退けばとて累を無關係の宮中に及ぼすの謂れなきのみかいよ〳〵政治の波瀾が宮中をも捲き込むに至らば自から帝室の尊榮に害なきを得ず凡そ政治はゞ俗なるものなれど黨を結び權力を爭ふ其間には感情するみともあれば脅迫するみともあり煽ふるみともあれば賄賂を使ふみともあり正人君子の眼より見れば堪へ難きみと多し幸に我帝室は高く其上に位して少しも俗塵に觸れ給はず大小の政務は閣臣をして責を負ふて執行せしめらるゝが故に假令ひ政界に如何なる濁流起るも毫も累を聖德に及ぼさず帝室と相ひ離れ萬年の春を享受せらるゝみとなれども若しも其濁流が宮中にまでも押寄するに於ては時に或は飛沫衮龍の御衣を汚し奉るみとなしと云ふ可らず長れ多き次第にあれば宮中は嚴重に府中と隔離し帝室をしていよ〳〵高くます〳〵尊からしめんみと我輩の切望する所なり

蠶業觀察（第九報）

六月　日　於信州上田町

永松山人

（上）

[illegible]下の[illegible]

[illegible]其產額全國に[illegible]

[illegible]製絲業に就て[illegible]成るべく詳細に調査せん[illegible]勤め

たれども短時日の能すべきにあらざれば其詳細は後日を期し福嶋、群馬の例により要を摘まんで略記すべし

蠶種、製種

雄略天皇の六年信濃國より眞綿を獻じ又饗老元年五月信濃國より絹を貢したる事古史に記せるを見れば信州は今を距るみと一千二百何十年前より養蠶の開けたるや明なりとして其秘密を誇るものゝあれども日本の蠶業は果して何處より傳はりしか創始以來如何に變遷せしか信濃國より眞綿を獻じ絹を貢したる頃他の地方の養蠶は如何なりしか日本蠶業の沿革は勿論信濃一國に於ける古來盛衰の跡を探るも容易に詳にし難かるべきを以て其起原、沿革は暫く擱き信州の蠶業が今日の盛況を致せしは實に近年の事にして其先づ小縣郡より始まり漸次全國に及びたる形跡あるを以てすれば或は上州の方面より傳播せしにあらざるかを疑ふ予が福嶋を以て養蠶の故國と稱せしも其創始の古きを云ふにあらず上州、信州等に比し近古に至り先づ發達せしやの形跡あるを以てなり上州碓氷地方即ち昔より信州との交通開けたる地方及び信州小縣地方の古志の說によるも近く明治の初年頃まで信州の蠶種は多くは奥州產に擬し奥州蠶種の名を犯して各地に販賣したる程にて奥州を以て蠶種の本場と稱せしは久しき以前よりの事なりと云ふ我邦蠶業の變遷に就ては後日調査の上記す事とし先づ信州に於ける養蠶製種の現狀を記さんに

一般の飼育法　は上州の如く區々ならず製種蠶の飼育に稍々溫度を加ふるのみにて製絲蠶は各地其氣候により掃立の遲速はあれど飼育法は略ぼ一定せり即ち天然育或は清涼育とも稱すべき方なれども室内空氣の乾濕、溫度の高低には常に注意し寒氣の甚しき時或は濕氣勝なる時に於て火力の強弱きときには火力（多くは薪火）を用ふるを以て曙平均溫度に差あるの外は高山社の所謂清溫育と異る所なく其薪火を用ふるは古來よりの事なりと云へば高山社の清溫育は之を新發明と謂ふを得べきや否や上州碓氷郡に於ける薪火育も固より同地の發明と謂ふを得ざるべきか而して其平均溫度は製種蠶にあつては七十度乃至七十二度を標準とせるもの多く製絲蠶一般の飼育は唯氣候の不順を加減するが爲めにして一定の標準なきもの多く其極めて寒冷或は濕氣勝なる時に於て火力を加ふるのみ

一定の器具　蠶座は上州と同じく竹簀に薄紙を敷きたるものなれども上州にて廣く用ふるもの〳〵如く廣大なる上州は大小區々にして其材料とする竹或は竹籠は上州其他より買入れ竹の少なき信州一般に竹籠を用ゐ且つ上州は大小區々にして信州は概して一定せるを見る乃も今の飼育法少なくも蠶座は上州より傳はりしにあらざるかを疑ふ

土地の氣候　信州の土地固より豐肥なら予却て他の穀類にも適せざる瘠土多く其氣候は稍々乾燥勝なれども朝夕の寒燥其極端甚しきみと多く其風土特に蠶桑に適當なるを見ず

桑樹の培養　桑の仕立法及び其種類は古來樣々の變遷ありし由なれども近年殆ど一定し多くは一反歩一千二百株乃至一千五百株位の植附けにて毎年根刈とし其種類は最も多く培養には頗る注意し肥料は糟干鰯、大豆、粕類、人糞等を用ひ其施用の法も多き

を以て山腹の瘠土と雖も桑葉能く繁茂し其年均收穫は

群馬、福嶋等よりは多しと云ふ

仕掛の養蠶家なし　縣下の蠶產額は實に一箇年四五十萬石に及ぶと雖も大仕掛の養蠶家あるにあらず一戶に十枚以上の原紙を掃立るものは殆ど無き程にて縣下二十二三萬の戶數其半は養蠶家なり本縣の如く各地に行渡れるは他に見ざる所にして是れ其產額の全國に冠たる所以なり

製種の增額　前にも記せし如く信州の蠶種は明治の初年まで奥州產に擬して賣捌きし程にて以前より蠶種の本場たりしにあらず殊に維新前蠶種輸出の盛なりし頃製種家勃興し其種類は雜駁に流れ其製法は粗雜を極め各地一般に種の品位を墜し終には一大挫折を來せしと共に信州の製種家亦多くは失敗せしが明治八九年頃より大に改良選擇に勤め漸く信州蠶種の名を成すに至り昨今各地に流行する小石丸、又昔等は信州其本場となり小石丸、又昔を掛合せて製出したる均白は小縣郡の中にても本場と謂ふべき盧尻附近より產出し各地盛々製種家の數を增し其產額年々に增加し全國到る處信州の蠶種を見ざるはなきに至り昨年の如き殺害の爲めに多少製種高を減ぜしならんとの掛念ありしに拘らず縣下の各檢査所に於て檢査せし總額は十六萬三千四百五十三枚の多きに及び前年より二萬九千四百餘枚即ち二割二步餘の增加にして中にも小縣郡は其大部分を占め東筑摩之に次ぎ其他の各郡は產額甚だしく下れり

信州蠶種の持色　信州蠶種が以前其本場たりし奥州を凌ぎて今日の盛況を呈するに至りしは何の特色あるに因るかと云ふに製種家の中には頻りに其改良に熱中し蠶室の構造に飼育法に機々の試驗をなしつゝあるものあり中にも屋代の石黑氏の蠶室の如きは十餘年の研究により漸く改築したりと稱し其新奇なる天下に二となき構造なれども是とて其蠶種に特色あるを聞かず一般の製種は動もすれば濫造に流れ易く他國の蠶種より特色あるにあらず要するに他國蠶種の改良する所なき信州の製種家は比較的に進步し其販賣に勤勉せしに因るものなるが如しと雖も寒國に產したる蠶種は其蠶兒稍々健全にして之を煖國に於て飼育するに適せるは或は唯一の特色と謂ふを得るならんか

夏蠶と秋蠶　夏蠶を飼育するものは他國にも少からざれども信州に最も多かるべく而して秋蠶に至ては殆ど信州の特有と謂ふべく信州の中にても東筑摩郡松本地方は即ち夏秋蠶の本場にして小縣郡に於ける桑蠶と對峙して兩大關たり

秋蠶の起源　天保年間上田町に於て晩夏蠶を以て秋蠶を飼育せしものゝあり是れ秋蠶の發明なりと云へど之を繼續せるものなかりし由にて今日の流行を見るに至りし始めは明治初年よりの事にして其始めは何かの間違ひよりして夏蠶の秋季に至て發生せしものを飼育せしに出でしものなりと云ふに過ぎず諸り桑夏二化蠶を風穴に貯藏して其發生を遲らし夏秋二季に發生せしむるものにして風穴とは古より存在せる風穴の日光徹せず夏尙ほ寒きものを利用して種紙を貯藏し置き適時之を出して催青せしむるものにして新たに風穴を作りて貯藏するものもあり風穴貯藏は一般の慣ひとなれり

夏秋蠶と桑葉　夏秋蠶は桑葉を傷ひるの惡あるを以て一般に忌避され之を飼育するの地至て少なき所なるが

信州の秋蠶地にては桑樹の栽培法を發明し今日の發芽前四月中に一尖頭の發芽二三葉を摘み取り其芽を發せしものを挿し置きて翌年四月に桑樹を傷ひるみと夏秋蠶の盛なる次第

何故なるかと云ふに　寒暑中の溫度高かの飼育と桐時となり憂ひあるを以て茲になりと云ふ

○倫敦防禦

近來英國に於ては當局者は各々所見を異にし二派に分れて論議

サーヴヰス

我輩は常に「倫敦攻撃は大なる海軍を正當の防禦は海軍を完備するを主眼とすべし」のにして先頃刊行のしたるスペンサー、肯綮に中るものなる一取地に塗るゝの驚張し得たる陸軍を以て餘力なかるべく如何道無かるべきなり然上能く開戰の當初なく海上を制壓すべ平時艦隊配合の當なる遲延するとに由て其目的とする侵入やも測るべからざる所の如し

ウヰルキンソン氏の岸或は東岸に上陸する方法に關するもの抗すべき適當の手段モルトケ將軍の計畫きを說き且つ今日の

ムレー氏の立案に近傍に上陸して倫敦を設くるの必要周圍に要塞を設く線を備へ比較的に持するを得せしむるきたりしが我が英國實みの點に存する周圍に砲臺を築くみべし

ウヰルキンソン氏が

るは寔に當を得たる所究し居るの人士はかるべく倫敦防備隔て能く優人軍